

## コンゴ、南スーダンへ司牧の旅へ

法王フランチェスコは、2023年1月末にローマを発ち、アフリカのコンゴ民主共和国（以下、コンゴ）と南スーダン共和国（以下、南スーダン）へと司牧の旅をした。両国とも、アフリカでも最貧国の一つに数えられ、内紛が絶えない。法王は、1月31日到着早々、コンゴのキンシャサにある大統領官邸を訪問した。法王の第一声は「世界の多くの国々よ、アフリカから手を離せ、コンゴから手を引け、搾取する鉱山ではないのだから」だった。この言葉は官邸内に響きわたった。法王は、コンゴの経済的下支えの役割を果たす金、コバルト、ダイヤモンドなどを中心に話を進めた。コンゴ人の女性や子供たちは、1日12時間から14時間、素手で坑道を掘り進んで、手にするのはわずか1ドルか2ドルだけだ。かつては政治的奴隷状態だったが、現在では経済的植民地となっている。世界はその事実を目を閉じ、耳を塞ぎ、口を閉じているのだと、法王は指弾する。

ある子供の告白を記そう。その子の名はカンバーレ、年齢13歳。「ゲリラは、私がわずか生後9カ月の時に、誘拐しました。でも、彼らの死刑執行を猶予してほしい。キリストにお願いしたい。密林に連れて行かれ、そこで暮らしている子供達を助けてほしいのです」と彼は訴える。法王は子供たちの話を聞き、心を痛め、その話を聞きながら傷のある彼らの顔を撫でていたりした。法王がこの国を訪れたのは、この国の現実を世界の人々が認識し、コンゴの内戦の元を絶つためであった。人々の血の叫びを聞き、神の声にも耳を貸してもらって、武器の音を鎮め、鉱物資源で富を増やすのはもう止めてほしいということだ。

集団ミサは、キンシャサの飛行場で、1月31日に行われた。その時には100万人の信者が集まった。法王はコンゴの東部にも司牧として訪れたかったが、そこは危険地域だから行程から外されていた。しかし、このミサには東部の信者たちもやって来ていた。100以上の武装した民族や部族の対立、また隣国ルアンダとの対立などがあって、解決することは困難かもしれない。2021年2月22日には、時の在コンゴ・イタリア大使ルーカ・アッタナジオが暗殺されているのだ。法王は「平和の使徒」たちが命を落としていると言及した。平和の使者たちの犠牲は永遠に忘れ去られることはない。1996年の内戦から、すでに600万人が亡くなっている。人々の平均寿命はわずか20歳というのだ。しかし、ここには未来がある。今後の発展、安定はこれからだ。国民はまず武器を捨てよう、部族の対立意識を捨てよう。ツチ族、フツ族と分かれていてもみな兄弟姉妹だ。法王はそう述べた。

## 南スーダンでの滞在

法王はコンゴの後、南スーダンへと足を伸ばした。南スーダンは、国として成立したのが、2011年で、世界で一番若い国だ。法王は2月3日、南スーダンのジュバの大統領官邸を訪問した。そこで、「戦争のために、父を葬る息子はいなくなり、息子を葬る父もいなくなってしまった」、「未来は、今

のあなた方に対する記憶を誇りに思うだろうか、あるいは抹消するのだろうか」と語った。

法王が大統領サルヴァ・キイイル、大族長ディン、また反体制派指導者リーケ・マチュールの足元に跪いて、それぞれの足に接吻してから、約4年経つ。しかし、その間に休戦・平和には漕ぎ着けてはいない。約束した国の結束にも至っていない。このことを踏まえて、法王は再び「紛争や相互の非難も十分、破壊ももう十分です。今は建設の時にしよう。戦いには背を向け、平和の時を立ち上げよう」と述べた。

法王はサレジオ会に属するレバノン出身のシスター・マルレーネを引き合いに出して、次のように述べた。「マルレーネは多大なる援助が必要だと世界に訴えました。部族間の争いが続いて40万人が亡くなり、そこに洪水、疫病、貧窮が追い打ちをかけたのです。現在国民の3分の2が国連の食糧計画に基づいて生活しています。今この国を変えることのできるのは女性たちです。女性たちは保護され、尊敬され、価値を認められ、また名誉を与えられるべきです。これらが実現しなければ未来はないでしょう」。マルレーネはサレジオ・センターに起居している。そこにはサロンがあり、ミシンがあり、パンやケーキをも作るオープンもある。外には菜園がある。シスターたちは保育園、幼稚園、小学校を持ち、サレジオ会の中学校、高校、職業訓練校もある。

## 法王機内でのインタビューに答える

法王は2月5日アフリカ訪問を終えて、南スーダンからローマに戻って来た。その機内では、随行者との間で恒例の一言一答がなされた。その内容は次の通りである。

- 1) 前法王との関係について：前年の12月の末に、前法王ベネディクト16世が亡くなったが、それを境に、私と前法王との間に溝があったと噂された。しかし、決してそんなことはなく、前法王とは多くの諸問題について話し合ったものだ。
- 2) 外交問題について：ウクライナのキーウ訪問は諦めたのか。そんなことはない。キーウを訪問するように計画を組んだ時に、モスクワの都合が悪かったからだ。私はキーウの大統領にも、モスクワの大統領にも会いたかったのだ。両者と戦争について、個々に話しかかった。世界では戦争のあるところはウクライナだけではない。シリア内戦はもう13年、イエメン内戦は10年、さらに憂慮すべきはミャンマーのロヒンギャたち、またラテンアメリカの人々の生命である。このように、世界には戦争の火種がたくさんある。
- 3) 同性愛の問題について：コンゴも南スーダンも同性愛を禁止しているが、今世界には、そのような国が50カ国ほどある。そのうちの10カ国には死刑がある。同性愛の人たちも神から見れば皆神の子だ。その人たちに同じ人間が罰を与えるということは、罪と言えるのではないだろうか。